

令和6年度岩城少年自然の家第2回協働会議 要旨

- 1 日 時 令和7年2月17日（月） 午後2時から午後3時半まで
- 2 場 所 岩城少年自然の家 小研修室
- 3 出席者
 - (1) 委員
三戸委員（副会長）、野尻委員、齋藤委員、加藤委員、佐良土委員、近藤委員、山本委員
 - (2) 県教育庁生涯学習課
渡辺主任社会教育主事、佐々木社会教育主事
 - (3) 事務局（岩城少年自然の家）
相庭所長、栗林主査（兼）総務チームリーダー、菊地主任社会教育主事（兼）指導チームリーダー、伊藤主事
- 4 議事概要
 - (1) 開会
 - (2) 岩城少年自然の家所長あいさつ
 - (3) 県生涯学習課あいさつ
 - (4) 出席者紹介
 - (5) 議事（議長：副会長）
 - ①報告
○今年度の岩城少年自然の家の運営について
○今年度の利用状況及び主催事業実施状況について
○来年度の運営ビジョンについて
○来年度の主催事業について
○ウサギコースの利用再開について
○クマ事案への対応について
○AIチャットボットの運用について
 - ②協議
 - (6) 閉会
- 5 協議の概要

委 員	前回ウサギコースの話をした時に、前所長が令和7年度当初からでも再開できそうだと話していた。私が歩いてみるとあちこち危険な所があるし、再開するにしても人が歩くとなれば当然整備が必要となる。当然予算要求をして事業に取りかからないといけないが、令和7年当初というのは厳しいのではないかなというふうに聞いていた。今回どのようにウサギコースの整備について話をするのかと思っていたので大変感激した。資料の赤いところが一番危険なところであり、森林の杉の木を伐採したところを歩くような新しいコースを造って迂回コースとしてやるということ。いずれにしてもまず景観がいい。見に行ったら風車がいいし、自然の家も見える。まだ時間がかかるだろうが早く整備して再開してほしい。
議 長	ウサギコースの再開について迂回路を考えた、ということに感激したということの良いか。
委 員	大賛成である。

議 長 このことについて再開を目指すという説明であったが、具体的にはいつ頃からこのコースの利用が可能になりそうなのか。

事務局 年度当初は厳しい。予算をとっているわけではないので自前で何とかしないといけないし、夏の暑い時の作業は厳しい。そうすると春から初夏にかけて整備をして秋頃再開できればよいのではないかというスケジュールである。

委 員 県の財政が予算をつけてくれればよいだろうが、そのあたりが難しいということか。

議 長 以前にも予算がなくて看板が新しくならないという話題があったと思うが、予算がない中で進めていくのは非常に大変なことだと思う。話は変わるが今回ウサギコース周辺ではクマの目撃情報はあるのか。

事務局 この辺は人が行かないので情報がないだけだと思う。資料の図を見てほしい。実際クマは山の中を歩いていると思うが、たまたま道路に出てきたときに目撃されているだけで、目撃情報という形ではないが、実際は縦横無尽に歩いていると思う。ウサギコースを歩いていてもたまたま見つからなかっただけかもしれない。

委 員 この図を見てこんなに出没しているんだと初めてつぶさに見て、結構大変なんだと感じた。何にせよクマが出て3時間や4時間、半日後に音楽で知らせがくる。それではいかがなものかと話した件もあった。県としても市としてもこれが精一杯だという。何ともならないと思っているが。

議 長 私も学校に務めているが、学区の中でクマが出た時に情報がいつもいつも2、3時間後に出てくる。たまたま今年昼に防災無線で流れてきたのが1時間以内だった。今回早いなという話をしながら、子どもたちが学校にいる時間だったので、下校に合わせて注意喚起を子どもと保護者にできたということがあった。このあたりは警察、市町村、県といろいろな連携を図っていかなければいけないところではないかと思っている。見たところ、12月になってもクマは眠らないという感じで大変だなと思っている。先ほどの資料にもあったように予防策がしっかりとられていて安心できることと、警戒レベルの対処方法もしっかりと各利用される団体の方々に説明しているので、安心して利用できるのではないかと思っている。

 今年度の事業及び来年度の事業について、このようなことに取り組んでみた、もしくは来年こういったところも考えてみてはどうかという意見ももらえると所としては非常に助かると思う。

委 員 鳥海山・飛島ジオパークについてである。昨年の2月17日に県立岩城少年自然の家との連携協定を結ばせてもらった。ジオパークは4年毎に再認定審査が行われるため、前回が令和2年度であったことから昨年の10月30日から11月1日に現地調査員による調査が行われた。4年に一度の審査なので前回指摘された事項などが改善されている事やこの4年間で新たに何を行ったかを確認してもらっている。県立岩城少年自然の家とはまだ1年位の関りではあったが、現地調査の際は、前所長から来てもらい私たちとともにプレゼンしてもらった。プレゼンの後に、現地調査員から高い評価をもらうことができ有難かった。他の団体とも関りがあり、同じくプレゼンしてもらったが、前須田所長の熱い言葉が一番効いていたように思った。

 別件になるが、昨年8月から国際交流員を採用している。アメリカ人で日本語も堪能な女性で岩城少年自然の家と何か協力して実施できることがあれば良

いと思っている。説明のあったイングリッシュキャンプについて、当方でも類似した事業の協力ができるのではと思った。

議長 イングリッシュキャンプについて説明してもらえると、新たなアイデアが浮かぶのではないかと思う。

事務局 イングリッシュキャンプは県の高校教育課が主催しており、毎年岩城少年自然の家を利用し年2回実施している。活動内容は、体育館で国際教養大の先生方それから英語のネイティブの方々が来て、申し込んだ子どもたちと一緒にゲーム的なことをして触れ合いながら外国語の向上を図っていくという内容で日帰りで行っているものである。

委員 当方は山形県の金峰少年自然の家と別館の海浜自然の家を対象とした連携協定を締結している。数年前に締結したことから年数が長い分、一緒に行った事業も多い。イベントなどにガイドや研究員を派遣したりなどの協力を行っている。海浜自然の家でも国際交流員が活躍する事業を行えればと思っているので、実施した際は岩城少年自然の家にも共有したいと思う。

議長 イングリッシュキャンプの対象の子ども達は何年生から何年生までなのか。

事務局 小学校3年生から中学生までが対象で、2回目が年齢を下げるというような感じである。

議長 英語に触れながら子ども達が英語を身近に感じられるような体験ができるので、できるだけ日本語を話さないという感じでやっていると思う。そういったときにジオパークのことなどを英語で説明する時間があると、写真を見ながらきっとこんなこと言ってるのではないか、といった想像ができるのではないか。私たちはどうしても英語は最初から最後まで全部わからなければいけないし、日本語で考えた文章をきちんと英語にしなければいけないという発想があるが、子ども達はそういう感じではなく、自分も英語で聞いたら何となく理解できたという経験がいいのではないかと思って聴いていた。

先ほど利用者の増加のところで幼稚園・保育園・認定こども園の利用者が増えたという話があったが、何か話はないだろうか。

委員 今年はうちでは利用していないが、先ほどクマの話でもあったが、おとし民間の方が4人被害にあってしまって、親達が外に出るのもだめというので園庭に出るのもダメにしたこともあった。その時はこちらを使わせてもらったが、室内でいろいろ楽しめるということで、ちょっと遠いところへ出かけて体験できたのはすごく良かったと思っている。ただやはりこの良い点は自然豊かなところ。いろんなコースを歩いたり、この間もインスタに坂でそり滑りをしているのも載っていて楽しそうにやってるなど見せてもらった。それとうちはザリガニ釣りである。サキイカを年配の男の先生が先に食べてしまってエサがなくて大丈夫かなと思ったが、案外1個のエサでずいぶん釣れて、何回もリリースしてまた釣れて。ザリガニはずっとなくさないでほしい。小さな子どもでも楽しめる家なのでこのまま続けてもらいたい。うちの方ではクマが出たら岩城に行こうみたいなことが心にいつもあるので、今年いろいろできて来れなかったが頑張っている。

議長 クマ対策が必要なときにこういったことができるんだということを話してもらった。子ども達はバスに乗って移動するのが大好きで、ちょっと遠くに出かけて、その先での普段できないような体験はすごくいい思い出になると思うの

で、皆さんにお知らせをしてもらってさらに増えていけばいいと思う。

特別支援学校、ゆり支援学校はよく利用しているということだったが、どうだったろうか。

委員

宿泊学習の事前学習にも来てもらい、大変わかりやすくありがたい。防災教室でも中学部、高等部もお世話になっている。今回来てもらった時に1つ感激したのが出前講座ということでうちの職員がすっかり任せてしまい、子どもの反応を傍観している感じがしていたが、職員の方が鍋で米を炊く活動をしていた時に、煮立ってきたとか、香りはどうか、温度はどうかとか五感に訴える言葉がけを意識的にやってくれていると感じた。そういう脇にいる私達の学校内の職員ができていないところをやってくれるなど、細かい配慮はやっぱり自然の家の職員だなと感じて有り難かった。その後、学校内でもこのエピソードを共有し、私達は子どもに豊かな体験をさせるという意識で五感を豊かにして子ども達に伝えていかなければならないと話したところだった。先ほどの所長の話にもあったけれども子ども達が目が輝くような活動をするためには職員が意識を持たなければならぬと、こちらの職員の方の姿を見て思わされた。

そして、先ほどの報告を聴いて参加者がとてもたくさんいる、そして増えてるということを感じた。それはきっと魅力的なネーミング、各体験のアピールが役立っているのではないかと感じて聴いていた。すごく自分も行ってみたいというものもあるので工夫が生きてきたと思う。何をやるかということも大事だが、どんなふうにするかということも大事だと思うので、新たなアイデアに加えて是非継続してこちらのいいところを生かしてもらえればと思う。バリアフリーも非常に使いやすく、生涯学習センターでもモルックやユニバーサルスポーツをやっているの、モルックなどは木に触りながら遊べるととてもいい活動なので外でやるのもいいと思う。引き続きよろしくをお願いしたい。

議長

今の話を聴きながら子ども達の体験活動であるが、実は私たち職員も研修の場になるのではないかと考えた。ただ子どもが自然の中で活動する姿を見て育ったとするのではなくて、職員の方々の言葉がけ1つでも私たちは学んでこれるような裏のねらいのようなものをもって行くと先生方も非常にいい機会になると思う。

大人も参加できる活動も増やし、先ほどの大人の利用もできるかといった質問が来るようなことはいいと思うが、大人目線でこういったことが面白そうだとかこんなことができるのではないかと意見がもらえれば有り難いので、お願いしたい。

委員

まずは施設の運営について、日々精励恪勤ほんとに敬意を表したいと思う。私は協働委員という立場だけでも今年度2回オープンデーに参加させてもらい、ウサギコースも去年の6月に歩いている。実際意見を述べる立場としてはこういった資料からしか意見を述べることはできないけれども、利用者数・満足度いずれも増加して非常に望ましいことであるが、実際数字を見るとエコフェスで人数を稼いでいるのではないかと。基本はやっぱりこの施設に多くの人々が来所してもらい、それがポイントになると思う。そういう意味で利用者の方々の満足にプラスして、そういう方々が周辺の人でも利用すべきとか、そういった視点も必要ではないかと思う。あと、自然というのがキーワードだが、まず先ほどのクマの話でもあったとおり自然に親しむという視点に加えて自然に対して畏敬の念を抱くということも必要。

最近頻発している自然災害なども自然の一部という観点もその中に教えてもらいたいと思う。話はずれるが、日本列島に住む限りは自然災害は避けられない。万が一被災者になった時にどういった生活、活動をしなければならぬのか。こちらの施設には体育館もあるので例えば炊き出しの訓練とか体育館

で段ボールベッドを作るとか、あるいはそこで宿泊するとか、そういった訓練がこれからの時代必要である。確かに自然というのは親しむ面もあるけれども自然に対する畏敬の念、自然災害に対してこういった活動をするんだとそういった企画イベントがあればいいのではないかなと思う。話は元に戻るが、6月のオープンデイで散策したウサギコースの後半部分にオレンジ色の木イチゴがたくさん実っていた。地域によりバライチゴやサルイチゴなどと呼ばれており、この実はクマの好物と言われている。また施設近く的高速道路を早朝に通った際にクマが道路を横断しているのを目撃したことがある。人間とクマが共生している現実と生物多様性の重要性を理解する必要がある、そうしたことも少年自然の家で子どもたちに教えてもらいたいと思う。

議長 自然は親しむものであるとともに、正しく恐れるということがすごく難しいと思う。そういったことも実は施設を利用しながら話してもらえると、小学生は宿泊をしているいろんな楽しい体験が中心になるが、中学生の利用者は自分たちは何ができるんだろうと考えるのもいいのではないかな。それにはやはりきちんと理解しなければいけない、自然理解というところも含まれてくるだろう、ということをお願いながら話を聴かせてもらった。

委員 まず資料を見ると利用者も着実に令和2年から増加しているというのは努力が結果となって現れているのではないかなと思う。さすがに私どもの施設も同様であるが、コロナになってからぐーんと落ちてから少しずつ戻している状況で、この家には職員の皆さんの結果がでているのだろうなと見ている。今年度はもうちょっと1万1千人位はいけそうだなということだろうか。先ほど1月も430人ということだったので、1万1千人を超えるといいなと思っていた。
質問したいのだが、連携推進事業の秋田エコフェスという事業は960人とすごい参加人数であったが、この中でストーンバランシングというのはどういうものか。

事務局 石積みである。石を積むだけである。

委員 親子でチャレンジしているような、そういうことを子どもは喜ぶのか。

事務局 喜んだ。大人も一緒に体験した。

委員 競うというわけではなくて、ただ単純に工夫して積んでいだけか。

事務局 いろいろな素材、色、形、大きさの石があって、それを自分たちで自由に積んでいくというような体験である。

委員 石は集めておくのか。

事務局 はい。こちらの方も代々、神長先生含め今いるスタッフが拾っても大丈夫な所から採集してきれいに洗っている。

委員 道の駅でもいろいろなイベントで人集めなければいけないので、工夫をしている。連携させていただけるものがあれば是非道の駅の施設を使って開催してもらえればと思う。ひょっとしたらこれはまねさせてもらうかもしれない。あともう1つ聞きたいが、リンゴ飴を作るとことは職員の皆が教えているのか。うちの職員もチャレンジしたが挫折してしまった。道の駅でも扱いたいと思い、フルーツ飴をチャレンジしたけれどもうまくいかなくて、非常に高度なテクニックが必要だと思うが、その技術をもっているのか。

事務局 テクニックというのか、砂糖を煮詰めた時に絶対途中で動かしたり触らないというところがポイントで、それがそのまま鼈甲飴も作れるのだが、こちらのリンゴ飴については、指導チームのチーム員が事前に研修をして、そしてそれを踏まえ、参加者にはリンゴを持参してもらい作った。イチゴを持参した参加者もいた。そして、煮詰める時に途中で絶対に触らないというところに気をつけていた。

委 員 今度是非うちの職員も参加させてもらいたい。非常にバラエティに富んだ活動になる。あとは私どもの食事提供の満足度を上げられるように頑張る。

議 長 今の話を聴いて、技術的な面も共有しながらお互いに高め合っていけたら良いと思った。また、スタンプラリーのような企画も面白いかなと勝手に考えた。でも景品は誰が出すのか、という問題もあるが。

皆さんからいろいろ話を聴きながら来年度期待を膨らませて頑張ってもらえたらと思いながら協議を進めてきた。今後も利用者数アップを目指して頑張ってもらいたい。

閉会